



2025年12月19日

各 位

会社名	株式会社Will Smart
代表者名	代表取締役社長 石井 康弘
コード番号	175A（東証グロース市場）
問合せ先	執行役員コーポレート本部長 本多 正行 (TEL 03-3527-2100)

### 新たな事業の開始に関するお知らせ

当社は、2025年12月19日開催の取締役会において、以下のとおり、新たな事業を開始することについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 事業開始の趣旨

当社は「移動を支えるテクノロジー企業」として、ドライバー不足の中で物流インフラを支えるため、国内の中小トラック運送事業者における低コストで高機能なデジタル式運行記録計の需要に対応し、OBDⅡ(※)型デジタル式運行記録計販売事業を開始いたします。

現在、運行記録計の装着義務の対象となっている車両総重量7トン以上または最大積載量4トン以上のトラックにおいて、デジタル式運行記録計の装着率は約80%であり、今後、国土交通省の目標である85%への引き上げに向けて、約5万台分の市場機会が生まれることが見込まれます。国土交通省はデジタル式運行記録計の普及促進を政策目標としており、実現に向けた補助制度を展開しています。しかし、従来型デジタル式運行記録計の高い導入コストおよび複雑なシステム連携が、中小事業者による導入の主要な障壁となっており、こうした市場環境の中で低コストなソリューションの需要拡大が見込まれます。

当社は、OBDⅡ端子からデータを記録する国内初のデジタル式運行記録計を開発いたしました。OBDⅡ端子への接続により配線工事なしで取付けが可能なため、従来型と比較して導入コストを削減できる設計となっています。本商品は2025年12月1日に国土交通省より型式指定を取得済みであり、国土交通省が実施する中小物流事業者向けの物流DX推進支援策への適用も視野に、補助金活用による導入促進を検討しています。当社は、モビリティシステムサービスの開発・運用で蓄積した車両管理技術およびクラウド基盤を活用し、本事業を実施いたします。

※ OBDⅡ (On-Board Diagnostics Ⅱ) : 車両のエンジンやトランスミッションなどの制御システムに関する情報を取得するための車載診断システム。標準化された端子を通じて外部デバイスの接続が可能。

## 2. 新たな事業の概要

### (1) 新たな事業の内容

OBDⅡ型デジタル式運行記録計（型式：OD420JP）の販売

### (2) 当該事業の開始のために特別に支出する金額及び内容

システム開発にかかるコストとして50百万円（概算）の支出を見込んでおります。その他、当該事業遂行の過程では広告宣伝費や人件費等の支出が見込まれます。

## 3. 日程

(1) 取締役会決議日：2025年12月19日

(2) 販売開始予定日：2026年4月

※中小事業者向けの補助金適用は2026年6月頃予定（今後申請）

## 4. 今後の見通し

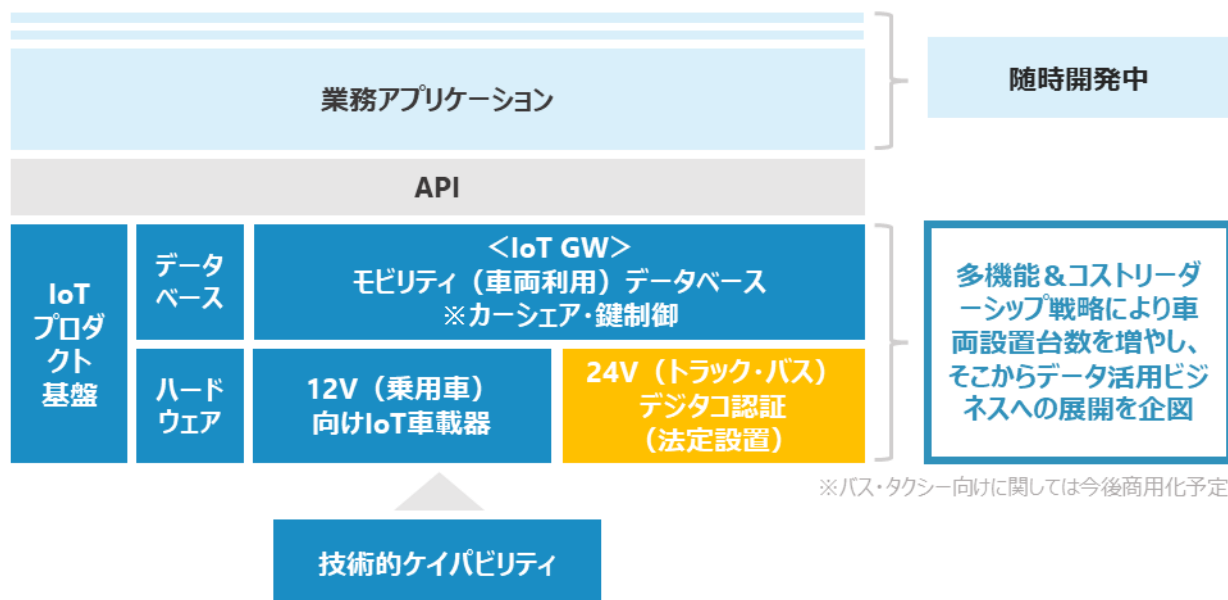
本事業における2025年12月期の業績に与える影響は軽微であると考えておりますが、中長期的には当社の業績向上に資するものと想定しております。

より詳細な情報につきましては、別紙のプレスリリースをご参照ください。

### 【補足：IoTビジネスとしての自社プラットフォームの成長戦略について】

競争力の源泉となるIoTプロダクト基盤の整備が着実に進んでおり、今後の商用化予定プロダクトも含めアプリケーションラインナップの拡充を目指してまいります。

### IoTプロダクト基盤の階層イメージ



以 上

## Will Smart、日本初の OBD 型デジタコの販売を開始

～中小トラック事業者向けに、安価・簡易・高機能な物流 DX ソリューションを展開～

「移動」を支えるテクノロジー企業として物流 DX の課題解決に取り組む株式会社 Will Smart（東京都江東区 代表取締役社長：石井康弘、以下 Will Smart）は、2026 年 4 月より、日本初の OBDⅡ（On-Board Diagnostics Ⅱ）型デジタルタコグラフ（型式名：OD420JP）の販売を開始することをお知らせいたします。本製品は、設置の簡易性・導入コストの低減・高精度データの取得を両立し、中小トラック事業者のデジタル化と経営効率化を支援する革新的なソリューションです。



### ■ 開発の背景

現在、車両総重量 7 トン以上または最大積載量 4 トン以上のトラックには、アナログ式またはデジタル式の運行記録計（デジタコ）の装着が義務付けられています。しかし、国内の多くの中小トラック運送事業者では、依然としてアナログ式が使われており、運行データのデジタル活用が進んでいないのが実情です。

こうした背景を受けて、国土交通省は「物流革新に向けた政策パッケージ」の中で、デジタル式運行記録計の普及を強く後押ししており、将来的な装着義務化も視野に入れつつ、2027 年までに装着率 85%を目指すとしています。この政策の背景には、2024 年度から適用されたドライバーの時間外労働規制への対応や、安全運転の徹底、労務管理の信頼性向上、そして運行データを活用した経営効率化といった業界課題への対策が求められていることがあります。

特に、全国に約 6 万 3,000 社存在するとされる中小トラック運送事業者では、導入費用の負担感、使い方の複雑さ、既存システムとの連携の難しさなどが障壁となり、導入が進みにくい状況にあります。

こうした課題を踏まえ、当社は中小事業者でも手軽に導入できる OD420JP を開発しました。本製品は、安価・簡易・拡張性という 3 つの特徴を備えた OBDⅡ 型デジタコであり、従来製品とは異なり、車両への取付けが容易でかつ多様な車両データの取得が可能であることが大きな利点です。また国土交通省が実施する中小物流事業者による物流 DX の推進支援策への適用も視野に、補助金活用による導入促進も検討しています。



(左画像が本製品 OD420JP 本体。右画像の赤丸部分が OBD II 端子。)

## ■ 製品の特徴と機能

### 特徴①：日本初、OBD 型による簡単・低コスト導入

従来のデジタコは、配線工事や設置位置の指定が必要で、取付けに関する手間と費用がかかるのが一般的でした。OD420JP は日本初となる OBD II 型デジタコとして、車両の OBD II 端子に差し込むだけで即座に利用が可能。取付けに係る導入コストを大幅に削減でき、中小トラック事業者や協力企業（いわゆる傭車〈ようしゃ〉）への展開も容易になります。これにより協力会社も含めた運行データの体系的な収集が可能となります。

### 特徴②：豊富で高精度な運行データをリアルタイムに取得・活用

OD420JP は、0.5 秒～数分単位の高頻度で、走行距離・時間、車両位置情報などの詳細な運行データを取得。リアルタイムで配車・動態管理システムやクラウド型 FMS（Fleet Management System）と連携し、業務全体を可視化します。さらに急ブレーキ・急加速・急減速などの危険運転を検知、安全運転指導や事故防止に活用可能です。燃料消費量や CO<sub>2</sub>排出量も正確に算出でき、環境管理や経営効率化にも貢献が期待されます。（※当該製品を用い燃料法に基づく CO<sub>2</sub>排出量の測定の精度調査を今年度実験中）

また将来的には故障の予知などへの活用が期待されており、メンテナンスの最適化（CBM：Condition Based Maintenance）の実現に寄与する可能性がございます。

### 特徴③：API 連携による柔軟な拡張性

クラウドベースで設計された OD420JP は、弊社が提供する IoT ゲートウェイ（API 連携）を通じ既存の業務システムともスムーズに統合可能。導入後も業務に合わせた新機能の追加や他サービスとの連携が容易で、継続的なアップデートによる価値向上が実現します。変化の激しい物流環境にも柔軟に対応できる、拡張性の高い次世代型デジタコです。

### 従来デジタコとの主な違い

要素	本製品（OD420JP）	従来のデジタコ
導入方法	OBD II 端子接続（取付け簡便）	複雑な配線工事が必要
初期導入費用	低額（非公表）	高額
月額費用	低額（非公表）	高額
データ取得頻度	0.5 秒～数分単位	低頻度
燃費・CO <sub>2</sub> 排出量管理	あり（精密に算出）	限定的または非対応
クラウド連携	API 連携で柔軟に拡張可能	限定的
システム拡張性	継続的な機能追加が可能	困難



## 製品仕様

項目	内容
型式	OD420JP
寸法	約 126×38×81mm
重量	約 163g
通信方式	LTE（Cat4）、Wi-Fi、Bluetooth 対応
搭載機能	GPS、セキュリティ、スマートフォン連携（将来：Digital Key 対応予定）
接続方式	OBD II 端子接続（配線工事不要）
デジタコ認証	国土交通省認証基準準拠（2025 年 12 月 1 日取得済み）
対応車種	運行記録計装着義務のある普通貨物自動車（車両総重量 7 トン以上または最大積載量 4 トン以上 等） ※OBD II ポートを備えた車両を対象としています。詳細な対応可否は車種・年式により異なります。

### ■ 導入による主なメリット

#### ①安全運転管理の高度化

走行データをリアルタイムで収集・可視化し、表やグラフで自動表示。急加速・急減速などの危険挙動も即座に把握でき、ドライバーへの安全運転への指導が可能になります。これにより、事故リスクの低減と安全運転教育の質向上が期待されます。

#### ②労務管理の正確性の向上

運転日報が自動で出力されるため、記入ミスや記入漏れを防止。荷待ち・荷役時間なども正確に把握でき、ドライバーの働き方の「見える化」に貢献します。2024 年度から適用された時間外労働の上限規制への対応としても有効です。

#### ③経営の効率化と環境負担の軽減

燃費データの可視化により、月間の燃料コストを 5～10%削減できる可能性があります。CO<sub>2</sub>排出量の把握と削減計画の立案も支援。故障予知データの活用により、突発的な修理・整備コストの抑制への将来的な期待もございます。

### ■ 販売開始予定

2026 年 4 月の販売開始を予定しています。なお、販売に関しては販売代理店様を通じた形態となります。なお、今後タコグラフの設置が義務付けられている事業用バス・タクシー車両への対応の拡大も予定しております。

### ■ 今後の展開

Will Smart は、OD420JP の販売を皮切りに、クラウド型 FMS、配車・動態管理システム、アルコールチェックシステム、その他 IoT 車載デバイスなどを組み合わせた、物流業界向けの総合プラットフォームの構築を進めてまいります。

OD420JP は API 連携を前提に設計されており、顧客が既存の業務システムや運用フローを活かしながら段階的に DX を推進できる柔軟性を備えています。これにより、将来的なデジタコ義務化を見据えた装着率向上を後押しするとともに、業界全体のデジタル化を加速させます。

また、安全運転管理の強化、労務管理の正確性向上、経営効率の最適化といった経営課題の解決を通じて、物流業界の健全な事業環境づくりと、地方に根ざした持続可能なモビリティ社会の実現に貢献してまいります。



## **株式会社 Will Smart とは**

Will Smart は顧客企業との対話を通じて培った経験やノウハウ、最新のソリューションを活用し、モビリティ業界のお客さまとの共創による社会課題の解決に取り組んでいます。

特に、デジタル技術を活用した既存業務の無人化や自動化に強みを持ち、バスターミナルにおけるバスダイヤ統合表示システムの新規開発や EV カーシェアリング・無人レンタカー・ライドシェア等を実現する IoT 車載デバイスの提供、バス共同経営を支えるデータ分析基盤の構築など、幅広い分野での支援実績がございます。

詳しくは Will Smart の Web サイト(<https://willsmart.co.jp/>)をご覧ください。

## **会社概要**

会 社 名：株式会社 Will Smart

代 表 者：代表取締役社長 石井康弘

設 立：2012 年 12 月 12 日

事業内容：モビリティ業界を中心とした事業課題解決に対して DX 技術を駆使したソリューションの企画・提案、ソフトウェアの受託開発と運用支援。

資 本 金：630 百万円（2024 年 12 月 31 日現在）



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 Will Smart 広報担当

TEL:03-3527-2100 MAIL: [pr@willsmart.co.jp](mailto:pr@willsmart.co.jp)